



神戸市の考え方は？

教育長：授業料無償化により家庭の経済状況に関わらず、学びの選択肢が増え、独自のカリキュラムや学習に関するサポート体制を持つ私立高校への流出といった、公立離れが進むと想定される。



神戸市立高校の強みは、国際都市グローバル貢献都市における地域密着型の探究学習や地域資源を生かしたSTEAM教育（教育科学(S)、技術(T)、工学(E)、芸術(A)、数学(M)の5分野を横断的に学び、実社会の課題解決力や創造性を養う教育手法）などが挙げられる。2月実施の推薦入試においても、

市立高校は比較的高い倍率を維持しており、直ちに授業料無償化の影響が出ないとする。

しかし、令和7年3月「これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議」の意見のまとめにおいて、市立高校の受験倍率は比較的高く安定しているが、危機感を持つ必要があるという意見もある。差別化・先駆性の視点から市立高校の特色や魅力の向上に取り組んでいく。

ユース世代の育成を！！

若者・地域

- ☑ 神戸市は、ユースステーションを各区に1ヶ所、ユースプラザを東西2ヶ所設置し、神戸市青少年会館をリニューアルしている。
- ☑ コベカツの開始に伴い、青少年会館などが中学生の放課後の居場所として再注目されるため、より充実したものにすべきではないか。
- ☑ ユース世代の今後の育成に力を入れるべきではないか。

副市長：家庭でも学校でもない場所で自分のやりたいことに挑戦し、安心して仲間づくりや多世代交流ができる場所として、青少年会館、ユースプラザ、各区にユースステーション（右上写真）を設置している。各施設には、ユースワーカーと呼ばれる若者支援の専門スタッフが、中高生に対して、見守りや声かけを行い関係性を構築している。



社会の中で自ら考え、行動できる若者の育成に繋げていきたい。
いさやま：「ユースワーカー」の育成とともに、ユース世代が、政策提案やまちづくりに関わる参加型プロジェクト「若者会議」の定例的な開催を実施すべき。民間主導のユースセンター開設の動きに対し（右下写真）、行政による伴走型のサポートを加速させるべき。



食を活かした観光施策を！！

国際・観光

予算議会 質疑のポイント

- ☑ 2030年4月を目標に神戸空港で国際定期便の運航を開始する方針が示され、旅客数が573万人となる計画がまとめられた。
- ☑ 2029年度頃に完成予定の市役所本庁舎2号館の建て替えでは、上層階に外資系5つ星ホテル「コンラッド」の誘致が調整されている。
- ☑ 神戸空港国際化を契機とし、今までの施策を観光と食文化の視点からグローバル文脈で発展させ、食を活かした観光施策に力を注ぐべき。

久元市長：食を生かした観光施策について、訴求力の高い神戸ビーフと、灘の日本酒を中心に、神戸の食の魅力を知ってもらうために、コンテンツ造成や情報発信に取り組んでいる。

2024年度からはガストロノミーをテーマに、県内の食材を用いたメニューの開発と旅行商品の造成に取り組んでいる。今後は、神戸の食のインバウンド向け展開を行っていききたい。



いさやま：訪日外国人の7割がリピーターとなり、旅行者が地方部へと移動している。訪日客の目的の一つである「食文化インバウンド」において、文化や習慣を含めた地域の魅力を食で伝える「ガストロノミーツーリズム」を推進すべき。

さらに、インバウンド対応において、多言語対応と、ムスリム対応、ベジタリアン・ヴィーガン対応といった「食の多様性」への配慮のために、「フードピクト」（右上写真）などを活用すべき。

予算特別委員会 質疑テーマ（抜粋）



自動運転の活用



ミュージアムロードの活性化



カスタマーハラスメント対策



公益通報制度



戦略的広報